

【11/17 本地ヶ原連合自治会と市議会との意見交換会論点筆記】

18:55～開始牧野議員（進行役）あいさつ片渚議長あいさつ

19:05～榊原会長あいさつ

尾張旭市で取組むことは何か？本地が要望するという事ではなく、本地の取組みを紹介し市内で同様な取組みをしている他自治会の参考になると考える。

自治会の加入率の問題。加入率の向上にも自治会の努力が寄与するのではないかと考える。

昭和34年の伊勢湾台風から公助だけではダメという認識になった。

参加者紹介

19:12～牧野議員から議員紹介と本日の流れについて説明。

19:15～自治会からの説明。（プロジェクターにて説明）・・・資料A参照

19:25～自治会からの事前の質問に対し、回答を3つに分けて説明する。

消防団第6分団車庫について大島議員より説明。

19:37～防災倉庫について榊原議員より説明。

19:40～イベントについて丸山議員より説明。

（意見交換）

- ・12月議会に第6分団の議案が出ていることを紹介した。
- ・議員から第2白山町内会の取組みを教えてほしいという質問あり、それに対し、災害時要援護者は4月に声をかけているとのこと。
- ・町内会で備品を検討→倉庫が必要。市に要望→倉庫ができた→次は何か？という話になった→そこから要援護者の手が上がった。

榊原会長から大久手自治会に事例があるということで、事例紹介の講座を開いた。町内会→組の構成員がほぼ全て80歳以上→組を組み直した。連合自治会、町内会のルールを絶対視しないという工夫がある。

20:00～

救急病院のこと。尾張旭市内に労災病院しかないという状況で良いのか？名古屋市北区の小学校では保健室を使って救急所として使用している。個人病院と学校が契約している。→防災リーダー会で市に提案している。

Q：防災倉庫の再編→南部倉庫をなくすことにならないのか？

A：市が受け入れる倉庫を検討している。南部倉庫をなくすということではない。（大島議員）

Q：学校の防災教育に地域の専門家に声をかけてはどうか？

→教育委員会が受けない。教務主任自身が防災教育を受けて先生が教えている。授業時間数の関係で難しい。

A：こども防災手帳をPTAで作成し、地域連携の中で行ってもらいたいという教育委員会の意向。（丸山議員）

→5年間、学校評議員として提案してきたが、一度も話がない。

→自助努力音頭やろうと思う。

→保育園の調理室、家具の固定が心配。

→学童保育も家具の固定が心配。

→自主防災組織は校区単位では形がついてきたが、町内会の落とし込みが進まない。22町内会あるが進まない。どうすればよいのか悩んでいる。

→旭ヶ丘連合自治会の事例を紹介（片渕議長）

（まとめ）片渕議長より

- ① 課題共有できて良かった。
- ② 現場を見て話をする機会を与えていただいて感謝。
- ③ この取組みが今後、他自治会に波及すると良い。

（まとめ）榊原会長より

- ① 次も行いたい。
- ② 本地ヶ原と東栄連合自治会の取組みが、他にも伝わり、広がると良いと思う。